

第五觀察

1280 水中中將

- 1. 一軍の戦法(原則的)は掃き戦中に依り師長個人として感したる主要事項に止む
- 1. 企画を秘匿し一撃に越境侵入す。
- 2. 捜索の爲に毎程戦車を要す用し該戦車は主要道路と相違冒進す
敵の抵抗を排除して更らに深く侵入せんとする場合は他方を行ひ難ま、
ときは強力を砲火の支援による成果を待つて行ふ。
- 3. 守者の重要なる火兵は戦車及び優勢力なる砲兵を以て悉く之を破壊
したる後戦車及び歩兵部隊悉くと逼迫突撃し来る。
- 4. 守者の運搬を無効ならしむる方法として特に注目するものは至近距離に
於ける自備の銃の掃射にして十層羅子構附近右地正隊の面に於ける
戦車の方の逆襲及肉迫攻撃を多量に之の爲に頼任せめられたるもの如し。
- 5. 夜に入れたる戦中と申すに適當の距離と後退し兵力を休養し陣容を一新
するもの如し又夜間攻撃、追撃、捜索等は之を常用せざるもの如し。
- 6. 戦中は敵の砲兵及戦車の行動容易なる方面に於て發展するを通常とす。
目的(任務)達成を主眼として之の達成の方法手段、形式等は深く問はれず如し風多
一軍幹部以下の事情
- 1. 上級將校(砲兵上)には教養あり新知識と判断力と実行力とを兼有する人物
少くせざるが如し其の他の幹部以下は教養乏しく命令之れ従ふが如し愚
昧の者多し但し昔年其を克たす少壯幹部及兵勇は概して新進氣鋭に
にして其の將來を注目すべし者多きが如し
- 2. 幹部以下忍耐力(精神力)困難状況に於て命令に命ぜりし任務を遂行する
を当然のものと爲すべし如し凡そ
- 3. 今尚左右の連絡には甚く缺陷あり又應用の才或は融通性を欠く者多し
此に上級の長所短所あり

(13)

1810

1010

三、ソ軍の兵器資料

深く研究するの機会を得たり。特に感したるは

1. 自衛小銃 (佐格マントリ) の多量とこの近距離射撃の有効なること

2. アメリカも信託した「オート製軽自動車」の堅牢にして行動力大なること (四年後のドイツに於てソ聯製模造品の運搬せられざるを自撃す)

社会主義國家たるソ聯邦に於ては、独り軍事のみならず總てのことに於て敢て現世界の先頭に立んとするの氣概と実行力とを有する。一部の指導者によりて支配せられざることに思を致し、ソ軍と云へば愚昧な軍隊なりと見做すが如き謔りたる考を一掃すべきなり。現に師長たる面の敵たる戦車兵士の装備の優良にして、今種級加農砲の威力の熾烈なり。勿論、兵種の如何を問はず感んじ自衛小銃を装備し巧に之を利甲したるが事は其の一例なり

四、秋の方の教訓事項等

1. 最も戦術に痛手となるべき場合を念頭に置き、決り處置を為すこと

は古くより慣らされ居たる答なきは、格すソ軍が早期に越境侵入し来らざるやとの苦み時の神懸み式のものに基礎として漸進構築法に依るべく、一帯に洞窟式の築城に着手したるは、何ともし大を逸失ならしむる之が為、築城一般に其用途を先たす強固厚野に伏臥したる状態に於て敵と對抗するに由るなり

2. 一般に編隊日あはやく上下左右の團結力親和力命令を予未教を補充

兵の教育訓練は特に工事に忙殺せられて未だ自ら信じて積極的は戦い得るの域に達せざりき (暑と寒と同一問題を如何に處理すべきかの研究)

3. 工事の初段に於て宿営設備に苦みたるは、米袋の低下に苦みたる無印袋の爲、戦闘開始後に於ては軍隊の一地を撤して他の地に赴く動作鈍重にして機宜に適合せざる傾向を生じたり加ふるに、工事に乗入るや、行軍力と着陸する機会を失ふこと酷暑とな更に機動力を減殺せり

0182

(4)

4. 戦場の跡を観察するに防衛系編成に重大なる過失ありしを

認め既に述べた如く戦中は砲兵及戦車(の行動)が容易なる本道方面に

於てを配置し十四師師主力方面の戦中に於て右地区隊のみ攻

撃の進退は主として地区隊に全く戦中せざる状態なりし即ち此の

方面に於ては老里山ノ羅子溝道の破壊、絶絶に於ては火制撃進攻

撃を行わざしに全力を傾倒し左地区隊方面は万一の場合の準備に

此の遠く西地を惣常々適宜之を準備報告する如く処置せざる有

りし戦中し得たるらん(道路阻絶破壊、戦車、歩兵の進退の容易なる本道方面)

5. 無線機の訓練、無線機の整備には大なる缺陷ありしを認め

6. 傷病死者(戦車砲兵)死力援護等より早く運搬せられたる降地と上陸する

の利益下戦中(風上)運送せしめられたる功を以て十六日の戦中於て師団の

上陸せる大半は西面南方の降地は必要に適合し収容せしめる傷病を

る砲兵の突撃を不能にし一軍兵を多く傷む傷病の兼敵を阻止し得

たるのみならず戦地も亦、組織的急襲の突撃を容るるならしめ

たり

7. 居留民等の保護の任務を兼有する関係軍の如き部隊とす斯の

如き場合の処置は甚だ遺憾の点ありしを認め

8. 多数の傷病兵を有する敵に對する戦中傷の訓練十分ならざる為敵

から多数の將兵を之によりて損傷せられたるは不覚なりし